

## 歩こう会「鶴崎歴史探訪」に参加

### 大 20 回 渡邊秀生

3月30日（土）午前10時、JR鶴崎駅前に参加者32名が集合。天気は願ってもない花見日和。桜は満開には少し早かったが、疾うに人生の満開期を過ぎてしまった我々には、「これから盛りを迎える楽しみ」を感じさせてくれる今日の五、六分咲きは、まさに見頃といったところか。

今回は歴史探訪ということで、鶴崎在住のボランティアガイドさんの後ろに続いて、いざ出発。参勤交代船着場跡、肥後藩鶴崎御茶屋跡、法心寺、毛利空桑記念館、劔八幡宮と回ったが、行く先々でも専属のガイドさんが出迎えてくれ、懇切丁寧なレクチャーをいただく。

鶴崎は江戸時代、大藩の肥後細川藩の領地であり、それも本領から離れた飛び地という気楽さもあったのか、総じて大らかさや伸びやかさを感じた。おそらく鶴崎にとっては、江戸時代が一番の良き時代ではなかったか？

NHKの「ブラタモリ」のような時間を過ごした後は、昼食をはさみ、今度は大野川左岸の土手を歩いて乙津川右岸にある鶴崎スポーツ公園に至る。さらに乙津川に架かる沈下橋を渡り、左岸の河川敷を歩く。菜の花と野生の大根の花が咲き誇り、桜や芽吹き始めた柳の緑と相まって、乙津川河川敷は、さながら春爛漫の風情であった。

締めは恒例？の酒蔵巡りで、住宅街を少し歩いて、森町にある「倉光酒蔵」に到着。大分市内で唯一残る造り酒屋とのことで、利き酒をご馳走になった上に、瓶詰のお酒と酒粕のお土産までいただいた。

まさに至れり尽くせりの「歩こう会」だったが、ご企画いただいた幹事の方々と、お世話になったボランティアガイドの皆様には、心から感謝申し上げたい。

最後に当日仕込んだ「ちょっといい話」を紹介したい。

加藤清正が肥後藩主だった頃に建立した、法心寺を訪れたときのこと。清正公（せいしょうこう）が今も鶴崎で慕われていることを聞き、ガイドさんに「細川藩は前代の清正公を慕うことを禁じなかったのか」とお尋ねしたところ、「清正公の評判があまりに良かったので、細川侯は領民の反発を恐れ、制圧するよりも清正公の遺徳と共生する道を選ばれたのではないか」とのことだった。

「清正公も偉いが、細川侯も偉い！」